

ユリシーズ第17挿話の考察

+ - × ÷

2022.4.24.ぬしろかずや



Gilbert schema for *Ulysses*(wikipediaより)

Title	Scene	Hour	Organ	Colour	Symbol	Art	Technic
Telemachus	The Tower	8am	-	White / gold	Heir	Theology	Narrative (young)
Nestor	The School	10am	-	Brown	Horse	History	Catechism (personal)
Proteus	The Strand	11am	-	Green	Tide	Philology	Monologue (male)
Calypso	The House	8am	Kidney	Orange	Nymph	Economics	Narrative (mature)
Lotus Eaters	The Bath	10am	Genitals	-	Eucharist	Botany / chemistry	Narcissism
Hades	The Graveyard	11am	Heart	White / black	Caretaker	Religion	Incubism
Aeolus	The Newspaper	12pm	Lungs	Red	Editor	Rhetoric	Enthymemic
Lestrygonians	The Lunch	1pm	Oesophagus	-	Constables	Architecture	Peristaltic
Scylla and Charybdis	The Library	2pm	Brain	-	Stratford / London	Literature	Dialectic
Wandering Rocks	The Streets	3pm	Blood	-	Citizens	Mechanics	Labyrinth
Sirens	The <u>Concert</u> Room	4pm	Ear	-	Barmaids	Music	Fuga per canonem
Cyclops	The Tavern	5pm	Muscle	-	Fenian	Politics	Gigantism
Nausicaa	The Rocks	8pm	Eye, nose	Grey / blue	Virgin	Painting	Tumescence / detumescence
Oxen of the Sun	The Hospital	10pm	Womb	White	Mothers	Medicine	Embryonic development
Circe	The Brothel	12am	Locomotor apparatus	-	Whore	Magic	Hallucination
Eumaeus	The Shelter	1am	Nerves	-	Sailors	Navigation	Narrative (old)
Ithaca	The House	2am	Skeleton	-	Comets	Science	Catechism (impersonal)
Penelope	The Bed	-	Flesh	-	Earth	-	Monologue (female)

第17挿話の2つの問い

lthaca	The House	2am	Skeleton	-	Comets	Science	Catechism (impersonal)
--------	-----------	-----	----------	---	--------	---------	------------------------

- なぜ教理問答(Catechism)形式の記述なのか？
- なぜ科学的な記述が随所に見られるのか？

なぜ教理問答(Catechism)形式の記述なのか？



■ 教理問答とは？(ブリタニカ国際大百科辞典より)

ギリシア語の *katēchein* (口頭で教える) に由来するキリスト教の用語で、教理問答、公教要理などと訳される。元来、問答形式で、信仰、希望、愛などの基本的な教えを口伝することであったが、転じて信仰を教えるための教科書、基本的な教えの要約書を意味するようになった。

一般的な教理問答では質問者＝信者、回答者＝司教の質疑応答を通じて、キリスト教世界の理解が試みられる。
⇒第17挿話においては誰が「質問者」で誰が「回答者」かを考えることが重要。

■ 「質問者」、「回答者」に関する個人的な説

lthaca	The House	2am	Skeleton	-	Comets	Science	Catechism (impersonal)
--------	-----------	-----	----------	---	--------	---------	------------------------

「非個人」な教理問答を想定していることから、質問者は不特定多数の対象者である「読者」である可能性が高い。このとき回答者は(i)ブルーム(ii)語り手のいずれかではないかと思われる。

(i)回答者ブルーム：不都合な支出の隠蔽

借方	ポンド	シリング	ペンス
豚の腎臓			3
『フリーマンズ・ジャーナル』一部			1
入浴とチップ		1	6
電車賃			1
パトリック・ディグナムの香典		5	
バンベリー・ケーキ			1
ランチ			7
貸本更新料		1	
便箋・封筒			2
ディナーとチップ		2	
郵便為替・切手		2	8
電車賃			1
豚の足肉			4
羊の足肉			3
フライ製菓の板チョコ		1	
角型ソーダパン			4
コーヒーとパン			4
借入金(スティーブン・ディーダラス)返済	1	7	
差し引き残高		16	6
	2	19	3

ブルームの収支報告書
(U-Δ,17,224)

娼家での一人分の代金10シリングと
スティーブンが壊したランプの5シリングが抜けている

回答者はブルームにとっての不都合な支出を隠蔽している

(i)回答者ブルーム：誤った科学の知識の披露

■ 誤った科学の知識・計算間違い

- ・容器内の水を蒸発させるのに必要なエネルギーの計算(U-Δ,17,146-147)
- ・スティーブンとブルームの年齢の関係性(比率)の計算(U-Δ,17,158-159)
- ・華氏、摂氏、絶対零度の取り扱い(U-Δ,17,210)

■ 回答者の性格

- ・本挿話では科学を用いた回答が随所に見られるが、これは「科学的気質」の代表人であるブルームを想起させる。(U-Δ,17,165)
- ・蛇足に満ちた科学知識の列挙、一部の知識の誤りや計算間違いといった第17挿話の回答者の発言はこれまでの挿話で見られたブルームに類似している。
(黒は熱を反射する：U-Δ,4,144、アルキメデスの原理：U-Δ,5,179)

本挿話の回答者に見られる「隠蔽された不都合な支出」、「誤った科学の知識や計算間違い」といった特徴はブルームの性格や事情に合致する。

(ii) 回答者としての「語り手」：なぜ語りに「科学」を用いたか

■ 教理と科学

教理＝聖書に基づいて世界を理解する行為

科学＝自然法則に基づき世界を理解する行為

教理も科学も世界を理解しようとする営みにおいては同じ。

第17挿話の語り手は「科学」を用いて読者に向けて『ユリシーズ』の小説世界を説明しようと試みる。

■ 科学を用いることの意義

ブルームの身長：5フィート9インチ(U-Δ,17,136)

ブルームの体重：11ストーン4ポンド(U-Δ,17,137)

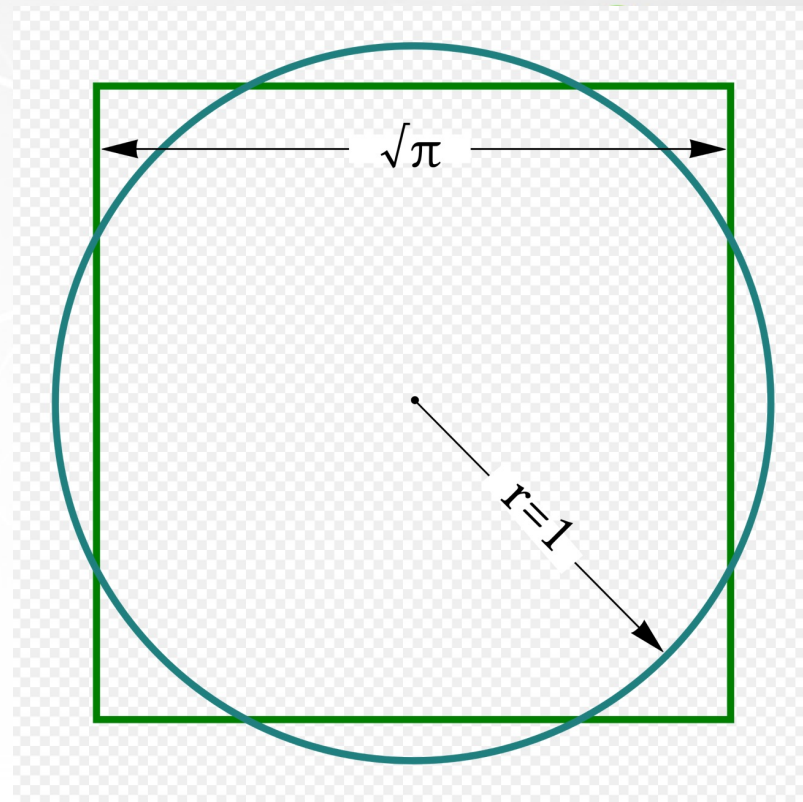
客観的・定量的な描写を行うことで万人にとって再現性の高いブルーム像を与える。

第17挿話の語り手は科学を用いた写実的な記述方法を行うことで『ユリシーズ』の正確な記述を試みる。

なぜ語りに「科学」を用いたか？ -円積問題-

ブルームの円積問題への言及
「1886年に円と等積な正方形を作る問題に没頭して」
(U-Δ,17,200)

円と面積の等しい正方形を作図する試み
⇒ $\sqrt{n}$ をコンパスと定規を用いて作成できるかと同義の問題



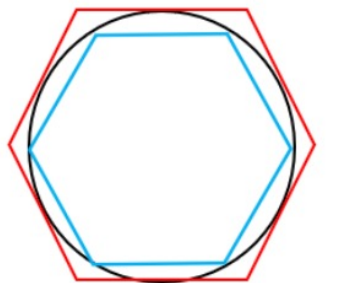
画像はwikipediaの円積問題のページより

1882年にドイツの数学者リンデマンにより n が超越数であることが示された。
これにより2000年来の難問であった円と等積な正方形を作ることが不可能であることが証明された。
捕捉：この問題はその数がコンパスと定規を用いて表されるというのが、2次の代数方程式の解になるということに変換される。
従って n が代数方程式の解を持たない超越数であることが示されることで作図の不可能性が証明された。

なぜ語りに「科学」を用いたか？ -円積問題-

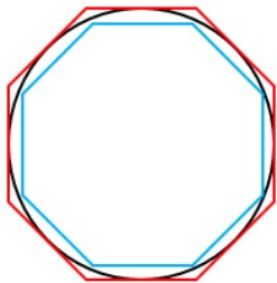
正多角形は同面積の正方形への幾何学的変換が可能である。
古代ギリシア人は円を正多角形に近似することで円積問題の解決を試みた。

正六角形



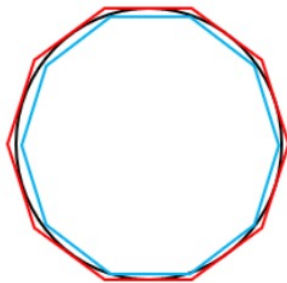
$$\text{blue hexagon} < \text{circle} < \text{red hexagon}$$

正八角形



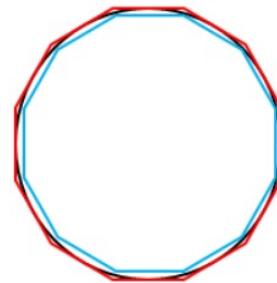
$$\text{blue octagon} < \text{circle} < \text{red octagon}$$

正十角形



$$\text{blue decagon} < \text{circle} < \text{red decagon}$$

正十二角形



$$\text{blue dodecagon} < \text{circle} < \text{red dodecagon}$$

内接する正多角形は常に円よりも面積が小さく決して円と同じ面積になることはない
⇒ n の正確な値を求めることは出来ない

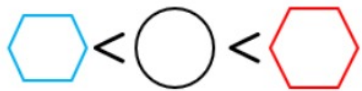
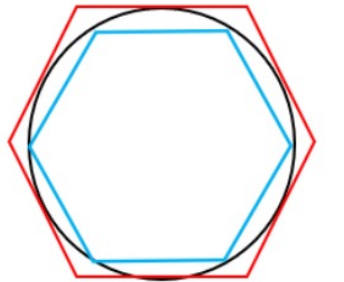
<https://sugaku.fun/circumference/>

なぜ語りに「科学」を用いたか？ -円積問題と第17挿話-

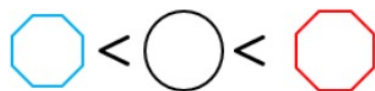
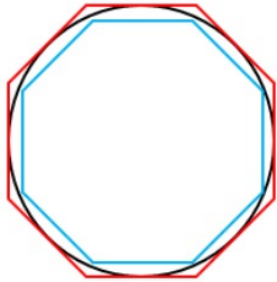
では、円を小説内の出来事と考え、それに近接する正多角形をその語り手法と捉えると・・・



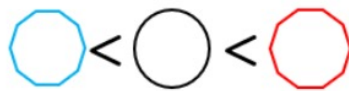
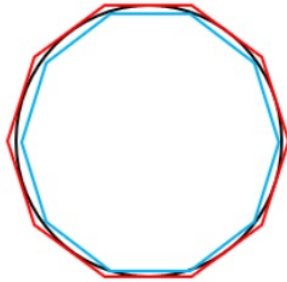
正六角形



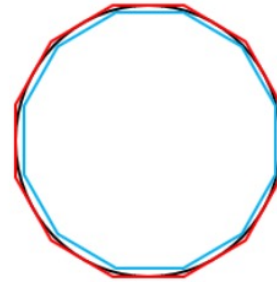
正八角形



正十角形



正十二角形



正n角形のnをどんなに大きくしても決して円と重なることはない。

⇒どれだけ解像度を高くして小説内の出来事を記述したとしても、決して正確に記述することは出来ない。

いかなる弦においても弦はその上に立つ弧より短いのであるから。(U-Δ, 17, 131)

⇒挿話内に登場する円積問題は「写実的な記述」の限界を示す比喩とも取れる

<https://sugaku.fun/circumference/>

なぜ語りに「科学」を用いたか？ -写実的な語りの限界-

■ 円と同一となる正多角形は存在しない

- どれだけ解像度良く詳細に小説内の出来事を記述しても、決して正確に記述することは出来ない
- 1904年6月16日ダブリン市ブルーム氏の出来事ですら正確に記述することはできていない

■ なぜ正確に記述することはできないのか？

- 計算間違いや誤った科学知識に基づく誤謬 = 方法論が正しくとも人の記憶や理解には欠陥が生じる
- ブルームの収支計算表から消された不都合な支出 = 人は得手して不都合な事実を隠蔽したがる

■ 理性の限界としての『ユリシーズ』

ユリシーズが出版された1922年の少し後には

ハイデルベルクの不確定性原理：位置と運動量を同時に決定することはできない(1927)

ゲーテルの不完全性定理：数学は自らの無矛盾性を証明できない(1931)

といった人間の理性の限界を示した幾つかの大発見がなされた。

ユリシーズは同時代の優れた発見と同じように、19世紀から続く写実的な語り手法の限界を示した

第17挿話の2つの問いの答え

lthaca	The House	2am	Skeleton	-	Comets	Science	Catechism (impersonal)
--------	-----------	-----	----------	---	--------	---------	------------------------

- なぜ教理問答(Catechism)形式の記述なのか？
教理問答は元々聖書を通じて世界を理解する営みであるが、ジョイスは語り手と読者との問答を通じて『ユリシーズ』という小説世界の理解を試みた
- なぜ科学的な記述が随所に見れるのか？
最も客観的で再現性が高い記述手法である「科学」を用いて記述したとしても、小説内の出来事を正確に記述することは不可能であるということを示すため

参考文献

「ユリシーズ」演義：川口喬一著,研究社出版,1994

Joyce's Unreliable Catechist: Mathematics and the Narration of "Ithaca" :
Patrick A. McCarthy, The Johns Hopkins University Press, 1984